

国語

I

出典

久野愛『視覚化する味覚——食を彩る資本主義』〈第四章 農場の工場化〉(岩波新書)

解答

- | | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 問 11 | 問 10 | 問 9 | 問 8 | 問 7 | 問 6 | 問 5 | 問 4 | 問 3 | 問 2 | 問 1 |
| ③ | ④ | ② | ③ | ① | ⑤ | ④ | ④ | ④ | あ | (1) ③ |
| | | | | | | ④ | ④ | ④ | い | (2) ① |
| | | | | | | け | イ | b | う | (3) ③ |
| | | | | | | ⑥ | ② | ① | ⑥ | (4) ④ |
| | | | | | | こ | ウ | c | え | (5) ⑤ |
| | | | | | | ③ | ⑤ | ③ | ① | (5) ② |
| | | | | | | さ | エ | | お | |
| | | | | | | ① | ③ | | ⑤ | か |
| | | | | | | し | オ | | | ④ |
| | | | | | | ⑤ | ① | | | き |
| | | | | | | す | | | | ② |
| | | | | | | ② | | | | |

- 問12 a、解決 β、否定
問13 1、人工 2、大量生産 3、自然

解説

問6 直前の内容が「果物の熟成の過程で皮の色が変化すること」なので、この点に触れたⅢが最初になる。冒頭の「この生理的現象」や「この緑からオレンジへの色の変化」から、Ⅲの次はⅠ。Ⅱは「一方、…カリフォルニア州では」となっているので、Ⅳの「フロリダ州」よりも後になるはずである。この条件に当てはまるのは⑤。

問7 この後で、「バナナの大規模生産」で「黄色種のみ」になった理由を「赤い品種は黄色いものよりも皮が薄く傷つきやすいため、長距離輸送には向いていなかったため」と説明している。「長距離輸送に適した黄色種の生産が中心」とした①が適している。

問8 直前の段落の内容を押さえること。「料理本や広告、その他様々なメディアで描かれるバナナはほとんどが黄色で表現」「こうして、多くの人々にとって、…黄色いバナナが『自然な』色として広まった」とあり、③の内容が合致している。

問9 直前に「消費者の多くが、ある特定の色をその食べ物の『自然な』色だと認識するようになったこと」とあることから、③と⑤は除外できる。同段落中の「店頭に並べる最適なタイミング」「利益率の向上につながった」から考えて、「効率的な宣伝や商品管理につながった」とする②が適切である。

問10 直後に「CFGEが作り出したものだ」という見方があった」「CFGEの広告やキャンペーンによるところが大きかった」とあるので、実際に①の「色が鮮やかではない」や②の「皮の色が異なる」という解答にはならない。③の「皮の色…と…完熟度は相関関係があるため」は誤り。「広告」などに影響を受けるものであるならば④の「明るいオレンジ色ならば…認識されている」が適しており、四段落前の「広告やディスプレイ、…高品質のおいしいオレンジとオレンジ色が強固に結びつけられ」とも合致している。

問11 ③第十三段落の「明るく色づいたオレンジをたくさん並べる…カラフルなモノ…豊かさを象徴する記号として消費

した」の内容に合致している。

④第十六段落にクレートラベルの「色」はグレードにより「決まっていた」とあるので、「生産者は…」以下が不適。

問12 a、直前から「これ（IIエチレン）によって、…ある程度解決することができたのである。しかし、エチレンは必ずしも完璧な…ではなかった」とつながるので、「解決」が適当。

β、直前の「好ましくない」や「評判を上げることにはならない」は「否定」的な意見といえる。同様の意味になる「批判」なども可である。

問13 1・3、最終段落の内容から判断できる。

2、第一段落に「大量生産と商品・生産過程の画一化」とある。

II

出典

『大鏡』〈内大臣道隆〉

解答

問1 ア―⑤ イ―① ウ―② エ―④
問2 A―④ B―① C―③ D―②

問3 a―⑧ b―③ c―④ d―⑥ e―⑨

問4 ①・③

問5 ③・⑦・⑩

問6 全く目をお覚ましにならないので（一五字以内）

問7 上戸

問2 A、「もてはやす」は「歡待する、さかんにほめる」意。お気に入りの〈烏が留まっている形の酒器〉に酒を入れて車内に持ち込んで、道隆が他の二人を歡待する（＝酒を酌み交わす）ということ。

B、「せ」はサ変動詞「す」の未然形、下接する「させたまひ」は尊敬の助動詞と補助動詞で最高敬語になっている。

C、目的地に到着して「御車かきおろしたれど（＝牛をはずして）御車のながえを下ろしたが」という文脈から判断する。主語は道隆で、「せ」は尊敬の助動詞。

D、これもそれぞれの単語の意味というよりは、「御前ども」がただ並んで控えているだけなので、「入道殿」が「やや」と起こそうとしたという文脈から考えるとよい。

問4 ①「小一条大将・閑院大将と一つ御車にて、紫野に出でさせたまひぬ」とあるので、「弟の道長と同じ牛車に乗り」は不適。

③「入道殿：表の御袴の裾を荒らかに引かせたまふ折ぞ、おどろかせたまひて」とあるので、「弟の道長が鈴を鳴らして起こした」は不適。

問6 「ね」は打消助動詞「ず」の已然形。「さらに：ず」は「全く：しない」意。「おどろく」は入試頻出語で、目を覚ますの意である。已然形に接続する「ば」は順接確定条件で、ここは「：ので」の意。

問7 冒頭で「男は、上戸、：不便なる折はべりや」と述べ、道隆がお酒が好きで少し見苦しい様子を見せることもあるが、第二段落後半で「いささかさりげなくて、きよらかにてぞおはしましたし」と、泥酔していてもすっきりと起きる例も示し、「よくおはしましたしける」と評していることから考える。